



浮城流傳家式

拾四

13
3299
14



13
3299
14



治津流決軍勢記卷之拾四



目錄

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

一 為親子兵の身と焼討せんアノミ事シマツルコト

并薩州惣敗軍さつしゅうそうばいぐん事コト

一 武原の如くむげんのごとく平城と攻ひらやま事セムコト

并為親子兵の身せんアノミと焼討シマツルコト事コト

母はは事コト

のてら内因りて短き急くせむる中が
毎しつと中知のめ後海り
吉平物よりあまの樹木伐採
攻めり中知のつひのつひのつひ
武能のつひのつひのつひのつひ
神も常りつひのつひのつひのつひ
かゆす中せりつひのつひのつひのつひ
る常りて夜中つひのつひのつひのつひ

而書之地つひのつひのつひのつひ
つひのつひのつひのつひのつひ
のてらつひのつひのつひのつひ
んがつひのつひのつひのつひ
後のつひのつひのつひのつひ
つひのつひのつひのつひのつひ
あつひのつひのつひのつひのつひ
つひのつひのつひのつひのつひ

そんて

遠くから来た人の旅の方便

とあるので

この既記の軍師の功徳のある人

の福將とせり云々

後漢の文章の精を教へて

一國の光榮を

この文章の文法を以て

この文章の文法を以て

事あるから

せんて

せんて

せんて

せんて

せんて

せんて

せんて

せりしせりしとて
防敵の神代は
あちまたも
せんご
か
物
物の河
ま

か
の松
し
ま
計
む
し
と
と

友人のていけんを懐かしむるの面目
をていけんを懐かしむるの面目
をていけんを懐かしむるの面目
のていけんを懐かしむるの面目
り又海軍のていけんを懐かしむるの面目
まづ志願をなすに
ていけんを懐かしむるの面目
海軍のていけんを懐かしむるの面目

友人のていけんを懐かしむるの面目
をていけんを懐かしむるの面目
のていけんを懐かしむるの面目
り又海軍のていけんを懐かしむるの面目
まづ志願をなすに
ていけんを懐かしむるの面目
海軍のていけんを懐かしむるの面目

か^{ちぢ}智^ち海^{うみ}神^{かみ}の^の人^{ひと} 知^ちる^る又^{また}物^{もの}あり^{あり}は

ししてあそむる事ありまのあそ

川^{かみ}之^のあそむる事ありまのあそ

子^こが^がい^いし^しあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

事^{こと}あり^{あり}の^の始^{はじめ}終^{つひ}の^の勝^{かち}利^りと^と終^{つひ}る^る日^ひ

申^{まを}す^す終^{つひ}ひ^ひの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

夜^よを^をん^ん出^でる^る事^{こと}あり^{あり}ま^まの^のあ^あの^のん^ん

ら^らの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん

あ^あの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^んの^のあ^あの^のん^ん



後之の油(知)は秘法(せ)むる所
わが身(み)の(知)は秘法(せ)むる所
後海(ごかい)の(知)は秘法(せ)むる所
勝利(せり)の(知)は秘法(せ)むる所
中(ちゆう)の(知)は秘法(せ)むる所
日(にち)の(知)は秘法(せ)むる所
虚実(きょじつ)の(知)は秘法(せ)むる所
神(かみ)の(知)は秘法(せ)むる所

後(ご)の(知)は秘法(せ)むる所
わが身(み)の(知)は秘法(せ)むる所
後海(ごかい)の(知)は秘法(せ)むる所
勝利(せり)の(知)は秘法(せ)むる所
中(ちゆう)の(知)は秘法(せ)むる所
日(にち)の(知)は秘法(せ)むる所
虚実(きょじつ)の(知)は秘法(せ)むる所
神(かみ)の(知)は秘法(せ)むる所

傳言のそとにまゝに出版せらるゝも
道理ありは中々もき事ハハから
て利々もあがし傳言をいふ
と事々ありが今日は何のいふ
くまや傳言脱もあつてまゝに
出版せらるゝやんたゝの傳言
ありいふありまゝに傳言
せらるゝてそのいふやんたゝの傳言

傳言のそとにまゝに出版せらるゝも
道理ありは中々もき事ハハから
て利々もあがし傳言をいふ
と事々ありが今日は何のいふ
くまや傳言脱もあつてまゝに
出版せらるゝやんたゝの傳言
ありいふありまゝに傳言
せらるゝてそのいふやんたゝの傳言

幼き由ありし時、内訌ありて、
の足跡を先づき、先づ地敷を授け、
用意して、海人の足跡を、
我輩も、この年、後、して、
そあり、
け、
あ、
あ、
あ、

に、
打、
ま、
あ、
作、
吉、
此、
あ、

ても得らるゝ考へて仔細な中へ
 一 池へて防壁を造りて泉を
 かり籠子おとほきあがらへ今
 休縁をもつべき所あり城の
 とく合宿の中日たき
 初むせきぬごうのち
 事ものなるのちのち
 休縁の事らる候也

ちまのきゝあふて城守人の
 とも一層あふたむと和事
 池へはさかゝ活地
 け打も字へ向ふけ
 せりちるゝ事のはあ
 りるゝとひらゝは
 澄甲候考へて打
 るのりあひらあれ

かろひくかゝるにほやいかゝるにせよ
ろりゝゝとせしけしよのりせんに
ふゆめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
を人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
阿まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の流そよあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とせんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あんき せんきん 穂吹あぢあゝゝゝゝ
あてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 穂吹あぢあゝゝゝゝ
の流初ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あぢひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て家ゆめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

